

九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

10

2016 Oct.

vol.104

【特集】 KYUSHU PRESENCE アジアの世紀と九州

「第1回 一億総活躍・地方創生全国大会 in九州」

日本の改革は西から起こる！

産学官の連携で九州を唯一無二に

Front Runner

「メタボロームの解析が医学の発展の鍵を握る」

生体防御医学研究所附属トランスオミクス医学研究センター 教授 馬場 健史



歴史散策

KYUDAI HISTORY STROLL

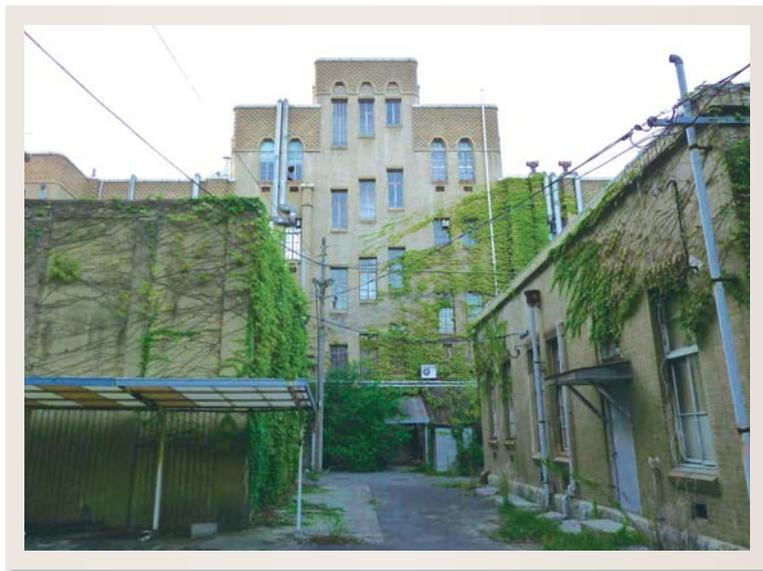
12

九州帝国大学 工学部応用化学教室

1923(大正12)年12月26日に発生した初代工学部本館の火災は、新聞報道で「全九州文化の大損失」として報じられた。原因調査の結果、化学実験用の強制排気装置であるドラフトチャンバー付近が火元と推定され、これを受ける形で同年12月30日の評議会において工学部から建物再建の際に火気を使用する学科は別館とする要望が出された。

応用化学教室は本館と棟を分けた不燃建築として1927(昭和2)年に建てられた。竣工当時の雰囲気を残す外観は映画のロケ地にも使用されており、建物表面には防空偽装として施されたタール跡も遺る。

市原猛志(百年史編集室 助教)



応用化学教室背面階段室を臨む。左側は旧変電室(解体済)、右側は高温化学実験室【2010年10月筆者撮影】

目次

34	33	31	27	23	19	17	16	15	11	07	03	02		
Information	MUSEUM REPORT	● 在中国九州大学同窓会 ● 薬友会関東支部総会 ● 能古会東京支部総会 ● 農学部同窓会・定例会議・うまいもん同窓会 ● 医学部同窓会総会 ● 関西同窓会 夏季ビアパーティー	同窓会だより	九州大学基金 23	● 未来を拓く筑紫の森 ● 被災地の子どものころをケア ● 熊本県に76人の学生を派遣!	Close up	KYUDAI TOPICS 受賞のお知らせ	躍動 合気道部	留学生体験記	世界のキャンパス	記者会見レポート	Front Runner 52 生体防御医学研究所附属 トランスオミクス医学研究センター 教授 馬場 健史	【特集】KYUSHU PRESENCE 日本の改革は西から起こる! 産学官の連携で九州を唯一無二に	九州大学ヨット部が 世界選手権に出場

表紙について

満面の笑顔とガッツポーズ。九州大学ヨット部が栄光を掴んだ今夏一枚です。賞状を手にした部員たちはカメラに向かって最高の表情を見せてくれました。

陽に灼けた小麦色の肌は彼らが日々、練習に励んできた証。輝く白い歯がまぶしく見えます。

風下に向かう走りは国内トップレベル、世界でも引けを取らない技術です。風を味方につけた彼らは、今後、さらなる高みを目指します。いったいどんな走りを見せてくれるのでしょうか。

■編集・発行:九州大学広報室 〒819-0395福岡市西区元岡744
■TEL:092-802-2130 ■FAX:092-802-2139
■E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp
■Webサイト:http://www.kyushu-u.ac.jp/
■印刷:株式会社ミドリ印刷 ■編集協力・取材:株式会社チカラ
■撮影:岡本正人、加来和博、中西ゆき乃、平川雄一郎
■デザイン:才原貴生(Office Chameleon)

◎お読みになつてのご感想やご意見をお待ちしています。
◎本誌記事を転載する場合は、事前に九州大学広報室までご連絡願います。
◎「九大広報」は九州大学Webサイトでもお読みいただくことができます。
◎次号は、2017年1月発行予定です。



高山・加崎組(国内大会)

九州大学ヨット部が 世界選手権に出場

世界で戦うセーラーが誕生！

2015年11月に行われた全日本スナイプ選手権で、総合11位(学生1位)を勝ち取った高山・加崎組が、2016年6月21日(火)～25日(土)にブラジルのリオデジャネイロで開催された「Western Hemisphere and Orient Championship」(西半球スナイプ選手権)に出場しました。

高山・加崎組はこの世界選手権で、参加艇37艇出場した中13位、日本人選手の艇では8艇中1位の好成績を収めました。

出場した高山・加崎組は、「今回の西半球選手権には九大ヨット部で培った実力がどれほど世界で通用するのかというチャレンジ精神を持って参加しました。レースでは海外の選手と比べて、スタート技術と風上に向かう走りの技術は劣っており、これからさらなる練習の必要性を感じましたが、九大ヨット部の中で徹底して練習していた風下に向かう走りの技術は世界レベルでも全く引けを取っておらず、大きな自信となりました。この遠征で得ることのできた経験は、私たちをセー

ラーとしてだけでなく人としても大きく成長させてくれました。」と喜びと今後の抱負を語りました。

また、2016年7月9日(土)、10日(日)に開催された第55回全国七大学総合体育大会では、スナイプ級、470級ともに1位で総合優勝を果たし、7連覇を達成しました。今後、これらを弾みとして、11月に開催される全日本学生ヨット選手権大会(全日本インカレ)に臨み、さらなる高みである総合優勝を目指します。



世界選手権出発前に久保総長へ決意表明を行ったヨット部一同

【特集】

日本の改革は 西から起こる！ 産学官の連携で 九州を唯一無二に

九州の未来を明るく照らすカギはどこにあるのか。
九州地方知事会、九州経済連合会、九州大学——。
それぞれの視点から、今後の目指すべき道をひもときました。

地方創生
震災を克服



KYUSHU PRESENCE
アジアの
世紀と
九州

九州を代表する4名が
これからの未来を討論！

7月27日・28日、安倍晋三内閣総
理大臣が掲げている「一億総活躍」
「地方創生」などの施策について全国
から産・学・官・民の代表など約20
00人が参加して議論しあう「第1
回一億総活躍・地方創生全国大会
in九州 〜震災を克服〜」が開
催されました。特別講演では安倍総
理が経済対策の規模を28兆円超と
発表して未来への投資に対して積極
的な姿勢を示しました。

27日は大野城まどかびあの館長
を務める林田スマ氏をコーディネー
ターに迎え、九州地方知事会・広瀬
勝貞会長は「陸海空のインフラ整備
を強化することで深まる九州の絆」
を、九州経済連合会・麻生泰会長は
「恵まれた九州だからできる新たな
産業の創出」を、九州大学・久保千
春総長は「大学の現状と課題、今後
の取組」をテーマにプレゼンテーショ
ンをした後、ディスカッションを開
始。未来を担う若者を輩出してい
る大学間が連携を強め、西から、こ
の九州から、日本を変えていこうと
いう気持ちを改めて強く持つ機会
となりました。

陸海空のインフラ整備を強化し 地域の活力を生む道筋をつくる

九州地方知事会 会長 広瀬勝貞氏

「地方創生」をやりとげるには、何と言っても各地域でみんなが力を発揮することです。そのためには交通インフラを整えておく必要があると、私は考えます。

道路は命を繋ぐ道です。4年前、北部九州の豪雨で滝室坂が高さ約170mに渡って大崩落したことがありました。昔から九州を東西に結ぶ道として大切にされていたので、国交省に頼んで道を強化してもらったのです。その結果、熊本地震が起きたときにはこの道が崩れることなく、無傷で通行することができました。今後、南海トラフ地震が起きるといわれていますが、このように道路の整備を常に考えていればきつと災害にも対処できると考えています。

また、大分には四国や本州とつながるための「九州の東の玄関口」と言える港が集中しています。さらに、熊本にある八代港は耐震構造になっていたおかげで、熊本地震の際には港に様々な物資を届けることができました。空のインフラ整備に関しては、民間管理に切り替えて利用を高度化できないかと考えています。

さらなる野望は新幹線の整備ですね。東側ももつと充実させたい。ざっと計算すると2兆6730億かかるそうですが「安い投資」だという気持ちで取り組んでいく所存です。



パネリスト

九州地方知事会
会長 広瀬勝貞

大分県出身。東京大学法学部卒業後に通産省入省。内閣総理大臣秘書官、経済産業省事務次官などを経て、2003年より大分県知事就任。2010年より九州地方知事会会長就任。

KATSUSADA HIROSE

九州の成長は第一次産業にあり 力を合わせた社会づくりを

九州経済連合会 会長 麻生泰氏

日本は1995年から2015年までの20年間、GDP推移がずっとフラットな状態です。「失われた10年」「失われた20年」と言われている間に、アメリカや中国の経済はぐんぐん伸びています。この現実に対して、私たちは果たして危機感を持っているのでしょうか。様々なブランドを携えているにもかかわらず「これを活かしてもっと成長させよう」という意識が、本当に私たちにはあるのでしょうか。

九州は日本の中でも非常に恵まれていると思います。アジアにも近く、自然に囲まれている。そんな九州は今後、第一次産業にチャンスがあると考えています。JAにとっても活気があり、海外も日本の農産物に対して非常に信頼が厚い。九州の農産物の分野がさらに秀でるとどうなるか。「東京に行きたい」と言って出て行った若者たちが帰ってきます。私たちが九州の魅力をさらに引き出すことができれば「地方は自然があり、暮らしが充実していいな」と言って、人口が戻ってくるのです。これこそが理想とする地方創生ではないでしょうか。地方創生は地域間の競争でもあります。さあ、今こそ力をあわせるときです。九州に働く力を集中させましょう。安心できる社会を作るにはすべきことがまだまだたくさんあるんですよ。



パネリスト

九州経済連合会
会長 麻生泰

1946年福岡県飯塚市生まれ。69年慶応大学法学部卒、72年英オックスフォード大学ニューカレッジ卒。麻生セメント代表取締役会長、九州経済連合会会長などを務める。

YUTAKA ASO

イノベーションの創出は 産学官連携がキーワード

九州大学 総長 久保千春

私たち九州大学は、時代のグローバル化にともない国際化を推し進めています。全国の大学で、海外からの留学生受け入れ数は約15万人。九州はそのうち約12%の1万8000人程度。九州大学は約2000人です。短期留学生も含めると約3000人になります。2018年4月にはグローバル化する社会経済において活躍できる人材育成のため、分野横断型のカリキュラムを特色とした新しい学部も設置する見込みです。私たちは国境や学問の領域を越えて活躍できる人材を育てるために多用な取組を考えています。ところが卒業した外国人のうち、日本で就職をする学生は約35%しかいません。さらなる留学生の派遣を促すには、産業界の理解が非常に重要となります。ぜひ地域社会も一丸となってグローバル化を力を入れていただければと思っています。

産業界の理解といえば、九州大学では様々な事業を進めています。例えばNTTドコモ、DeNA、福岡市と共同で自動運転技術の開発を目指す「スマートモビリティ推進コンソーシアム」の設立です。以前には住友理工と「歩行アシストスーツ」を共同開発したこともあります。このように、私たちは共同研究の受け入れに積極的です。ぜひ今後も産学官で連携しグローバル化を目指すとともに、イノベーションの創出を図っていききたいと思います。九州から日本を変えましょう。



パネリスト

国立大学法人九州大学
総長 久保千春

1973年九州大学医学部を卒業。82～84年米国オクラホマ医学研究所勤務、93年九州大学医学部心療内科教授などを経て、2008～14年九州大病院院長。14年10月から現職。

CHIHARU KUBO



産 学官連携についてそれぞれの見解

林田…素晴らしいプレゼンテーションをありがとうございます。ここからはそれぞれのご意見を伺っていきます。広瀬さんは九州の交通インフラについてまとめてくださいましたが、九州といえば観光も活用の一つです。そこに関してお聞かせください。

広瀬…熊本地震が起きる前は九州への宿泊客数は4461万人でした。ところが地震で痛手を負い、今年の5月の連休まで70万件的宿泊キャンセルがあったと聞きます。被害額は140億円を超えていると。そこで登場したのが「九州ふっこう割」です。12月までで150万人の観光客を戻す見込みだそうです。ぜひ観光問題もみんなの手で解決していきたいですね。

林田…久保さんがおっしゃっていた「産学官連携」については、どうお考えでしょうか。

広瀬…産学官はもちろんですが、九州大学はその名のとおり

九州の大学ですから、九州を代表してもっと大学間の連携を強めていってほしいと思います。例えば大分大学だけでは航空機

産業を盛り上げることができなくとも、九州大学と連携をとることができればきつと大きく動くはず。また、久保さんの話の中に留学生を増やすという話がありました。そこを飛び越えて留学生が日本で事業をどんどん起こすようになればさらに良いですよ。しかし、事業を起こすには資金が必要。これは産業界に「留学生を雇ってください」とお願いするだけではなく、大学や経済界が制度を整えていくべきではないでしょうか。そういう観点からは、産学官

連携は非常に良いと思います。

林田…連携を通していくと、どんなことが起きると思いますか。
麻生…働きたくても不本意ながら職がなく国に戻る留学生も多いのが現状です。産学官、大学間が連携をして留学生が働けるよう規制を緩和する例をつくるというのも面白いかもしれませんが。九州がモデルケースになるのです。やはり、社内、学校内、あるいは行政内にもっと外国人がいるべきですよ。そして何度か言っていますが、私たちはグローバル化に対応できる力を今こそつけるべきなのです。



コーディネーター

公益財団法人 大野城まどかびあ館長 林田スマ

元RKB毎日放送アナウンサー、現在フリーとしてTVラジオの番組を担当。九州大学人間環境学府修士課程修了。(公財)大野城まどかびあ館長、マックスバリュ九州社外取締役等。

SUMA HAYASHIDA

九州パワーがあれば日本を変えていけるはず

林田…九州がモデルケースとなつて特例をつくり、それが全国展開するのはとても可能性を感じますね。久保さんはいかがですか。

久保…大学間の連携を強めるというご意見はごもつともですね。例えば講義や講座を共通して受けられるようになればそれぞれの大学の強みを共有するこ

とができます。伊都キャンパスには、

産学官から多くの方々が来られますが、以前「日本の改革はこれまで

西から来ている」とおっしゃった方が

いました。ぜひ、大学間そして産

学官の連携を強めて、西から、この

九州から、日本を変えていきたいですね。

麻生…九州経済連合会のミッションは「九州から日本を動かそう」です。しかし日本人はビジネスにおいて海外から「NATO」

(ノースアトランティック条約機構)と揶揄されることがよくある。商談の場に多くの人間がそろっていても、あれやこれやと話すだけ

です。すぐに決定的な判断がくだせない消極的なビジネスマンが多いというこ

事です。私たちが今平和に暮らしているのは先人た

ちが築き上げてくださったからです。それを維持する責任

が、私たちにはあるんです。気持ちや考え方もグローバル化させ、悔やまずばやかず頑張りましょ

う。



広瀬…麻生さんが、行政との連携が強いとおっしゃっていたように九州は「こんなことはできないか」「ぜひやってみよう」という意思がとても強いと思います。そこで私は「Earth戦略」を紹介します。Eはエネルギー、エコ

ロジー、arはアグリカルチャー、tはツーリズム、hは医療、ヘルスケアをそれぞれ意味します。九州は今後、この自然が生み出した4つの戦略分野「Earth」を連携させ、アジアのゲートウェイとして持続的な発展を目指すべきです。そして、日本全体の地方創生をひっぱっていき、どこにも負けない、尖った九州をつくっていきましょう。「Earth戦略」はインターネットなどで調べるとより具体的な施策がわかるので見てみてください。

林田…輝く未来への投資というのは、お金だけではなくて人の力がどれくらい加わっていくかというところにヒントがあるような気がします。九州には、源泉が1万50個あると聞いたことがあります。つまり、日本の36・5%の源泉は九州にあるということですね。私たちも、心の中に熱い温泉を噴き出させて九州から何かを変えていこう、なんとかしようという意気込みを持ってこれからの未来を生きていきたいですね。広瀬さん、麻生さん、久保さん、今日はどうもありがとうございました。



「フロンランナー」は九州大学の若手研究者の最前線をインタビュー形式で紹介するシリーズです。

メタボロームの解析が 医学の発展の鍵を握る

生体成分や医薬品の分析から食品の解析まで、分析技術がさまざまな分野に生かされています。画期的な分析技術開発と応用に取り組む馬場健史教授にお話を伺いました。



——ご専門のメタボロミクス研究について教えてください。
メタボロイト(代謝産物)に由来するメタボロミクスは、代謝物：例えば、タンパクや糖、アミノ酸の変化が病気の発現などどのように関わっているのかを研究しています。近年の分析技術の進歩により、多くの生体成分を一度に解析ができるようになり、発展してきた学問・分野なのです。また、メタボロミクスのほかにも、分析技術を生かした身近な食品の機能性成分の解析や残留農薬検査、また臨床検査

九州大学 生体防御医学研究所附属トランスオミクス医学研究センター
メタボロミクス分野 教授 博士(工学)

馬場 健史 Takeshi Bamba

1994年 3月	岡山大学 農学部卒業
1996年 3月	岡山大学 大学院農学研究科 修士課程修了
4月	株式会社日本生物科学研究所 研究員
1997年 5月	株式会社JBDL 主任研究員
2001年 3月	大阪大学 大学院工学研究科博士後期課程単位取得退学
11月	博士(工学)取得
4月	日立造船株式会社 主任研究員(NEDOプロジェクト博士研究員)
2006年 4月	大阪大学 大学院薬学研究科 助手(2007年同助教)
2008年 4月	大阪大学 大学院工学研究科 准教授
2010年 9月	生物工学奨励賞(斎藤賞)受賞
2015年 3月	九州大学 生体防御医学研究所 教授
6月	日本質量分析学会奨励賞受賞

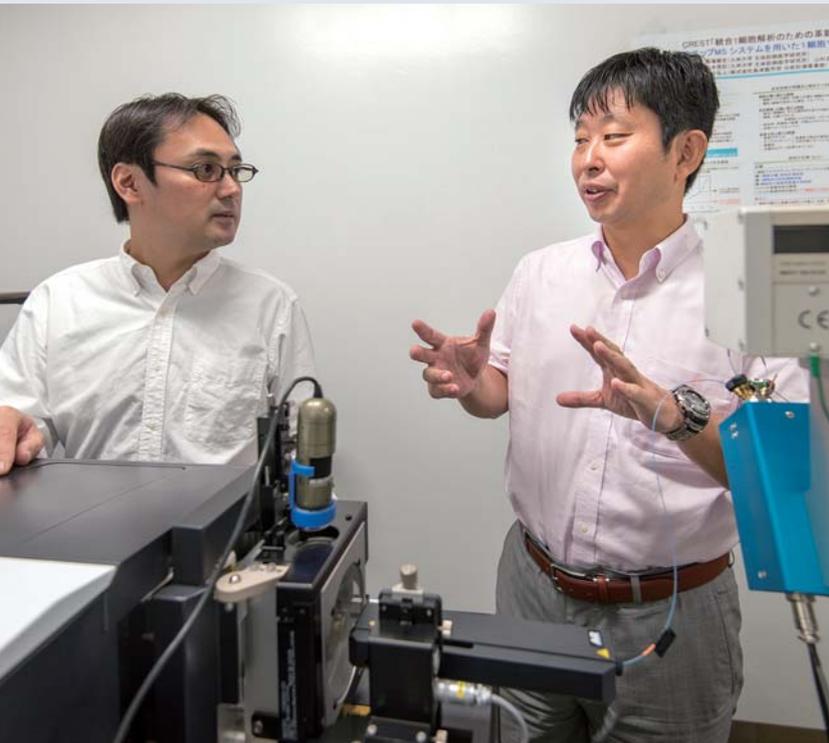
技術の開発などを手掛けています。

——この研究に興味を持ったきっかけは何だったのでしょうか。

大学在学中は、天然物化学の分野で植物などの成分を分析していたことから、いろいろな分析装置を使って研究をしていました。もともと機械が好きだったこともあり、さまざまな分析装置を駆使して成分を解析する分析化学にとっても興味を持ちました。多成分を一齐に解析するというメタボロミクスの新しい分析のストラテジに大きな可能性を感じ、また、最近分析をメインとする研究室が少なくなってきた中で、「分析屋が主役として生き残れる道はこれだ」と考えました。

——大学で修士を修めた後は民間企業で研究を続けられたそうですね。

就職活動をしていた時に教授から大手企業の推薦をいただいたのですが、大きな会社の歯車になるのに抵抗がありました。そんな時、聞いたことのない大阪の会社のがきが届いたので。あまり深く考えずにとりあえず会社の見学に行きました。



トランスオミクス医学研究センタープロテオミクス分野の松本雅紀准教授との共同研究が進んでいます。

そこは納豆菌を用いた健康ドリンクを作っている小さな会社で、「新しく研究所を造るので、ぜひ来てください」と誘われました。研究所長の熱意にも心を動かされ、その場で「お世話になりました」と返事をして帰ってきたのですが、教授にはものすごく怒られましたね(笑)。ただ、自分の仕事として成果を残したい気持ちが強かったんです。

——一枚のがきがターニングポイントだったんですね。

ええ。その健康食品会社で、

楽しく仕事をしていたら、教授から「面白い会社がある」とベンチャー企業を紹介されました。私の「新たな研究に取り組みたい、他にない成果を残したい」という気持ちを鑑みて、合いそうなどころを探してくれていたんです。その会社は好熱菌を使った生体廃棄物を処理・再資源化する技術を研究開発していました。それまでの仕事も面白かったのですが、お世話になった教授が気にかけてくれたのが嬉しく、新しい道へと進むことにな

りました。

——民間企業での経験で得られた最も大きなことは何でしょうか。

実際に企業で仕事させていただいたことにより、実社会がいかにシビアで厳しいかを実感できたことです。また、さまざまな分野の方とお会いさせていただくことができ、世の中には本当によい人がいるということが分かったのも大きな成果でした。それまでに得た知識や能力ではハイレベルの人たちとは勝負ができないことを強く認識し、今後研究を続けるためにはさらに勉強・研究をしてドクターを取得する必要性を感じ、大阪大学の博士課程に入りました。

——博士取得後はアカデミアとして大学で研究を続けようと考えていたのですか。

正直に言うとアカデミアにならなくても良いと思っていました。今もそうですが、当時も大学でポジションを得るのがとても難しく、無理だろうなと。企業の研究にも興味があったので、34歳になったときに家族のことも考えてある企業に就職しようとしていたところ、突然助手の話

をいただいたのです。思いがけずアカデミアの道に入りました。

——その後、開発に取り組まれた分析技術がとても画期的なものだとお伺いしておりますが。

それは、超臨界流体クロマトグラフィー(SFC)のことです。SFCには博士課程の時に出会い、植物の作るゴムの分析で使用しました。その後、メタボロミクスをすると似た構造のものが非常に多く、解析の難易度が高い脂質の分析における技術開発に取り組んだのです。そして超臨界流体クロマトグラフィー質量分析を用いたりピドミクスシステムを構築しました。さらに、島津製作所さんと超臨界流体による抽出分析が可能な装置も開発しました。

——分離手法の超臨界流体クロマトグラフィーとはどのような技術なのでしょう。

超臨界流体の炭酸ガスを使う分離方法です。この手法を使えば今まで分離できなかったものを分けることができます。さらに、超臨界流体を使うことにより、成分の抽出・分析を一貫して行えるという大きなメリットがあります。



研究室では、生体内の変化を代謝物のプロファイルから解析している。

——それが、残留農薬検査システムに生かされているのですね。

検査対象の農薬の性質が幅広いことから、通常の残留農薬検査にはガスクロマトグラフィ質量分析と液体クロマトグラフィ質量分析の両方が用いられています。また、分析試料の調製には抽出・精製など多くの工程が必要となり、多検体の検査を実施することがスループット、コストの問題で大変なのが現状

です。開発したのは、破碎した試料を装置にセットするだけで500種類もの成分の一斉分析が50分で可能な、今までにない新しいシステムでした。

——装置開発を手掛けた島津製作所とどうやって共同研究への道を切り開いたのでしょうか。

当時使用していた装置の問題点、すなわち「ここを改良すれば良い」というのは分かっていた。「その装置がどれほど有用なのか」「どのような装置を開発すれば日本だけでなく海外でも売れるのか」について説明し、共同開発にこぎつけました。結果、開発した装置は日本、そして海外でも高い評価を得ています。これはPitcon Editors' Awards 2015金賞や日刊工業新聞社2015年十大新製品賞を受賞しました。研究は何を分析できるか、求める結果を得られるのか、市場ニーズを汲むのが大事です。達成したい目標のために、企業を巻き込む産学官連携が重要だと感じた出来事でした。

——その点、先生は外部との接点を持つ機会が多いと感じられます。どのように情報収集されているのでしょうか。



共同で開発を手がけた分析装置(写真左)

この研究がどう役に立ち、どのような意義があるのかをしっかりと考え、必要ならば民間企業や装置メーカーなども協力して研究開発に取り組むことが世界的に認められる成果につながるかと考えています。

——産学官連携における研究開発とはどういう位置付けなのでしょう。

今は大学の研究者はもちろん、装置メーカーや試薬メーカー、ソフトウェアメーカーの方とも共同で研究・開発を進めています。ニーズがあるからこそ、われわれ

の研究があります。そして新しい科学を進展させていかなければなりません。どんな技術・装置を開発すれば良いのか、次はどんな分野を攻めるべきなのかといった情報が研究室に集まり、それぞれにフィードバックできる拠点となるのが理想です。また、発展のためにはより良いチームを編成することも必要でしょう。従来のように各々が研究を突き詰めるのではなく、技術を共有し、ブラッシュアップをすることが重要なのです。そこで、当研究室に多くの方に集まっていたが新しい技術を開発する拠点になるべく、装置・環境の整備に取り組んでいます。

——いろいろな企業とディスカッションする中で新しいアイデアも出てくると思います。情報の管理で先生が心掛けていらっしゃることは。

それぞれがサンプルを持ってきたり分析した結果はそれぞれの財産になります。ただ、分析の技術はみんなでも共有する。そのため企業の方には、当研究室で開発した分析技術は論文として公表することを念頭においていただいで共同研究をしています。



Q 研究を進めるうえで、つらいことはありましたか?

A ポジションが上がるごとに分析の現場から離れなければならないことです。新しい装置は実際に触り、使い方や性能を確かめることで次のアイデアが浮かぶのですが、今は研究室の運営があるため触る時間があまりとれないのが悲しいですね。

Q 反面、嬉しいことは?

A 学生や研究員が分析の質の重要性を理解してくれて、レベルの高い結果を出してくれるのが嬉しいです。この立場になって、人を育てることのやりがいや重要性を感じるようになりました。

Q 研究の合間の息抜きは何をしていますか?

A もっぱらお酒とテニスです。九大の研究所に着任してから、福岡にはこんなにも酒蔵が多いのかと驚きました。日本酒がおいしいので、日本酒バーや居酒屋によく行きます。



Q 影響を受けた人物は?

A 大阪大学名誉教授の小林昭雄先生です。「研究は面白いと思えることをしないと!」とよく言っていて、人生の岐路で導いてくださいました。また、前向きにどんなことにもチャレンジする姿勢を学びました。

Q モットーを教えてください。

A 「分析は愛情と根性」。装置に対する愛情がない、すなわち装置の状態が理解できていないと求める結果を得ることができません。我々の世界では「装置は使う人を見る」とも言います。あとは、納得がいくデータが出るまでがんばる根性が大事です。どれだけ装置とたわむれて仲良くなるかが、全てです。

す。それが科学の発展につながりますから。
—さらに、平成25年には九大にトランスオミクス医学研究センターが立ち上がりました。世界でも珍しい研究センターだそうですね。

トランスオミクスとは遺伝子情報、タンパク質、代謝物など複数の階層のデータを包括的かつ統合的に解析する新しい学問領域のことです。全てのオミクスの研究室を同一施設内に集めたセンターを設立することにより、近い距離で互いの研究内容を共有しながら研究を進められるようになりしました。このような研究所は世界でも九大だけです。ここからオミクスデータの統合解析によるオリジナリティーの高い発見、成果が得られるのではないかと考えています。

—では、研究を進めるうえで、研究者を支援するURAに求めるものとは。
大学側には研究を理解していただき、補助金の提案や研究者のコーディネート、より研究が深められるチーム編成などをプロデュースしてもらえると、今後のプロジェクトが円滑に進むと考えています。

—研究を継続することでどのような未来が待っているとお考えでしょうか。
メタボロミクスのデータを研究センターの他分野のオミクスのデータと統合解析してことで、今後の医学を大きく発展させる可能性を秘めていると考えます。近い将来は、一滴の血液から、さまざまな病気を発症前の段階で見つけられるようになるでしょう。この研究を実現できるのが、九大のトランスオミクス医学研究センターだと確信しています。

—メタボロミクスの研究が医学の世界で大きな希望となる、と感じられました。とても興味深いお話をありがとうございました。
* 研究推進職 (U.R.A. University Research Administrator) とは 研究開発に係る企画立案、資金の確保、知的財産の取得および活用、その他研究開発に係る業務に従事する専門職。



今回の聞き手
学術研究・産学官連携本部
総括企画調整グループ
研究推進主幹 (U.R.A.)
博士 (理学) 平田 徳宏





夏の教室にて虫取りの様子

生き物の不思議と命の重みを実感

セミとカイコの生態を学ぶ 夏の昆虫教室を開催

総合研究博物館

助教 丸山 宗利 まるやま むねとし



記者懇談会の様子

総合研究博物館ではここ5年ほど、毎年、夏に昆虫教室を開催しています。会場は箱崎キャンパスと、糸島市にある志摩歴史資料館です。箱崎キャンパスでは、カイコのまゆを用いた教室とセミの標本作製教室を行っています。カイコのまゆを用いた教室は、カイコのまゆから糸を取る作業を行い、カイコの生活や由来について学ぶことを目的としています。またセミの標本作製教室は、最も身近な昆虫であるセミを用い、半永久的に保存可能な標本の作製を行いながら、セミの生態について学ぶことを目的としています。これらの教室は科学研究費補助金「アジアにおけるツノゼミの種多様性と生態進化」の公開事業として、「ひらめき☆ときめきサイエンス」の助成を受けており、いずれの教室でもツノゼミという昆虫について詳しい解説を行いました。志摩歴史資料館での教室は、糸島市内の雑木林で昆虫を採集し、会場に戻って、同じく長期保存可能な標本作製することを目的に行っています。いずれの教室も農学研究院附属遺伝子資源開発研究セン

総合研究博物館について

総合研究博物館は学内にある研究資料を一元的に管理することを主な目的として設立されました。実は九州大学は日本の昆虫研究の中心地で、国内で最大の昆虫研究者数を擁するとともに、日本最大の昆虫標本の収蔵量を誇っています。その数は約400万点と推定されており、毎年世界中から研究者が標本の閲覧に訪れて利用されています。博物館ではデータベース化等で標本利用の利便性を向上させるとともに、学内外で展示事業を行い、昆虫の多様性に関する普及啓蒙にこれら昆虫標本を利用しています。

ターと昆虫学教室の協力を得て行っています。昆虫標本作製は、30-40年前までは、ごく一般的な夏休みの宿題でしたが、近年、「残酷」「虫が気持ち悪い」などといった理由により、教育の現場から排除されてきました。しかし、殺して標本にしてみないと、命の弱さや重み、詳しい体の構造な

代表者から一言

昆虫の魅力を一言でいえば多様性です。世界には知られているだけで100万種、実際にはその数倍はいるという昆虫ですが、それぞれが違った姿をしていて、違った行動や生活をしていると想像すれば、ほとんど無限の世界と言ってよいと思います。当然、研究すべきことはたくさん残されていて、誰もが驚くような新発見もまだまだできます。私は特に分類学といって新種を発見し、図鑑を作ることを専門にしていますが、そのような基礎的な学問分野の対象として昆虫はまだ魅力的です。



ど、学べないことがたくさんあります。そして何より、昆虫やその生息環境について、より深い興味を持つことができます。草の根的ではありませんが、学校ではなかなか学べないことを子どもたちに体験してもらいたく、今後も続けていきたいと思っています。

九州大学総合研究博物館Webサイト：
<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/>





記者懇談会の様子

チャレンジ& クリエイション(C&C) 総長賞受賞①

3D歯科骨再生治療

代表 大多和 徳人 おおたわ なると
 受賞時：歯学府歯学専攻4年
 (現：社会医療法人 敬和会 大分岡病院 口腔顎顔面外科)

3D 歯科骨再生治療は、3D プリンターを歯槽骨(歯を支える骨)の再生治療に応用する治療のことで、歯槽骨再生治療のアナログな概念と3D時代のデジタルな概念を融合した新たな治療法を提案しています。

歯槽骨再生治療は、歯周病で歯を失った患者さんがインプラント治療を希望する場合に行われます。歯周病の影響で多くの歯槽骨が吸収され、インプラント治療に必要とされる歯槽骨の高さや幅が足りないためです。これまでの歯槽骨再生治療は、簡単に言うと自家骨や人工骨などの移植骨を歯槽骨の欠損部に盛り足すだけの治療でした。それ故、患者さんの口腔内で顆粒状の移植骨を任意の形状にするのは難しく、さまざまな課題点がありました。

3D 歯科骨再生治療はコンピュータと3Dプリンターを駆使することで、移植骨を予め、患者さんに完全に適合する任意の形状で手術前に準備することが出来ます。これにより、歯槽骨再生治療がより簡素で、より正確になることが期待されます。

代表者から一言

九州大学を卒業し、歯科医師として働きながら大学院へ進学しました。九州大学には医療を創造する機会を与えていただきました。患者さんに既存の医療を提供するだけでなく、さまざまな分野の技術革新を既存の医療と融合することで、医療の質を向上できる可能性にチャレンジできました。九州大学には優れた先生、仲間、環境が揃っています。在学生または受験生の皆様には是非、それぞれの分野でイノベーションに挑戦してください。



Email: otawa@dent.kyushu-u.ac.jp



3Dプリンターで作った骨が移植骨として完全に適合

チャレンジ& クリエイション(C&C)は、QRECの看板事業のひとつで、九州大学の学生が自ら企画するユニークなアイデアや研究プロジェクトの実現を助成する全学事業です。平成9年にスタート後、毎年実施し九州大学の独自性を示す象徴的な教育プロジェクトとなっています。個人または学生グループが、自ら企画・計画したプロジェクトを審査し、独自性、挑戦度、社会的インパクトによって8チームを選抜します。学生は50万円を限度とする資金を予算とし、実現を目指し活動します。翌年2月には活動の成果報告会を開催し、再度の審査により優秀プロジェクトを表彰しています。

C&Cは、参加する大学院生・学部学生の自主性、チャレンジ魂、起業家精神を高める契機となっています。学生は自ら設定した目標実現に向けて、直面する課題と向き合い、問題解決を図り続けていく一連のプロセスを通じ多くを学びます。

ロバート・ファン /
 アントレプレナーシップ・
 センター(QREC)





風車の比較実験用タワーにて

チャレンジ& クリエイション(C&C) 総長賞受賞②

次世代風力開発 プロジェクト

代表 大瀧 裕也 おおたき ゆうや

受賞時:21世紀プログラム3年



実験装置の設計と解析の様子

私たち「次世代風力開発プロジェクト」は、前身となる団体を平成25年に立ち上げて以来、高効率かつ低コストな小型風力発電機の実現に向けて活動を続けてきました。コンパクトで導入が手軽な小型の風力発電機は、昨今の環境意識の高まりに加え、エネルギー需要の増大や、電力固定価格買い取り制度の拡充などをうけ、世界的に注目を浴びています。

あくまで研究室から独立した学生グループが、潤沢なリソースがすぎ込まれた企業の製品に挑むことは無謀ではないか、と思われるかもしれませんが、しかし、これまで大型化に注力してきた風力発電機市場は、小型機の技術においては未成熟な状況にあります。そこで、学生の柔軟な発想力や行

代表者から一言

バーチャルな感覚にあふれた現代で、自ら手を動かし研究に没頭することは、もはやぜいたくな営みかもしれません。幸い本学には、QRECをはじめ、学生の自発的な活動をサポートする体制が整っていますが、加えてメンバーの支えがなければ、研究の純粋な面白さに触れられることはできないでしょう。

私どもの活動は今年度からサークル化し、新入生を募集中です。リーダーとして、今後は彼らにもその楽しさを伝えていければと思います。

次世代風力開発プロジェクトE-mail: info@q-wind.jp
次世代風力開発プロジェクトWebサイト: <http://q-wind.jp>



動力を存分に活かすことができます。

私たちは実際に、独自の改良によって最大で約60%もの発電量の向上を達成しました。これからも、小型風力発電機の普及と研究の発展に、多少なりとも貢献できれば幸いです。



授賞式集合写真



応募者審査会での審査員への学生発表



応募者審査会



九大生が現地からレポート

世界のキャンパス

九州大学から世界へ!!
海外でどんなことを学び、どんな暮らしをしているのか。
素直な言葉で語っていただきました。

世界とつながるおもしろさ 変化し続ける中国では 毎日が刺激の連続です。



理学部3年
高崎 恵以子
(たかさき えいこ)



留学国: 中国
留学先: 清華大学



万里の長城での一枚(中央が本人)

人口13億5千万人を擁する中国。その政治的中心であり、中国北部随一の経済都市・北京は、数多くの重要な施設や中央組織が設置されている。だけでなく、中国独自の文化や風習が色濃く残る街です。夏は40度を上回り、冬はマイナス15度を下回る激しい気候変化と、近年急速に建設された道路や高層ビル群、拡大され続ける地下鉄網など、今まさに大きく変化を遂げているこの街に、私は半年間(一学期間)留学をしました。



ダンスサークルの仲間たちと(中央右側が本人)

北京大学と学力面でも肩を並べる中国随一の総合大学です。驚いたのは充実した設備と学生の勉強熱心さ。テストが近づくと、朝8時開館の図書館の前に席取りの行列ができます。

私は中国語の授業を中心に、自分の専門や興味のある授業を履修しました。特に印象に残っているのが、Skypeを利用して韓国・ソウル大学と共同で開講される「Global Communication」という授業で

す。中韓の学生だけでなく欧米や東南・中央アジアからの多くの留学生を交え、世界から見た東アジアの情勢や両国の文化相違を英語で討論しました。

授業のほかにも、ストリートダンス部に所属したり、NPOのインターンに行ったり、留学生仲間と旅行したりと、貴重な経験をたくさん積みました。

エネルギッシュで変化し続ける国、中国。留学中の刺激に溢れた日々は、自分の視野を大きく広げてくれました。

留学生の本音トーク

休日や放課後の過ごし方は?

ダンスサークルに所属し、放課後や講義がない日には仲間と練習に励んでいます。コンクールにも出場しました。休日には、一度は見たいと思っていた万里の長城へ行ったり、友達とハイキングへ出かけたり。今しかできない体験を楽しんでいます。



休日に友人とハイキング(右が本人)

留学情報はこちら!

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study>



大学情報
清華大学

清華大学は1911年に創設された国家重点国立大学です。14学部、55学科、教職員7000人、学生3万人を擁し、特に理工系の学問に秀でており、胡錦濤前国家主席、習近平現国家主席をはじめとして、中国各界に多彩な人材を輩出しています。毎年数多くの世界的研究者が清華大学で講義を行っているほか、各国の要人、国際企業の経営者もその多くが清華大学で講演を行っています。キャンパスの美しさや建築物の評価は高く、米経済誌「フォーブス」による「最も美しい大学キャンパスランキング」14大学の中で、唯一アジアからランクインしました。



留学生体験記

九州大学で学ぶ留学生の日常を紹介するコーナーです。
今回は中国の北東部にある山西省から来た孔庆観さんせいしやうさんに
九大の魅力や自身の研究についてインタビューしました。



Q 日本に興味を持ったきっかけは？

私は大学時代に東北地方りやうねいしやうにある遼寧省で5年間暮らしました。福岡までは約986km。以前から日本を身近に感じていました。大学3年生の頃、大学で通訳のボランティアをしていた時に日本人の先生に出会ったことも大きかったですね。日本の生活や文化について教えていただき、日本語を熱心に勉強するようになりました。

Q どうして九州大学に？

留学を意識し始めたとき、偶然にも九州大学出身の先生に出会いました。先生からは研究室の明るい雰囲気や意欲的な学生の話聞いていたので、留学するならここが一番だと思ったんです。実際に来てみると思っていた以上に楽しくて。ただ一つ、驚いたのは伊都キャンパス周辺は想像以上に田舎だったことです(笑)。今では海も山も美味しい料理もあるこの土地が気に入っています。

Q 週末は何をして過ごすの？

「いとしま国際観光大使*」として糸島の文化を体験させていただく機会が増えました。この活動も九州大学の「留学生サポートセンター」の紹介がきっかけです。しめ飾りや器作りなどのイベントに参加して、SNSで中国の友人に糸島の魅力をPRしています。

※いとしま国際観光大使…九州大学で学ぶ留学生に糸島の観光を体験してもらい、その魅力を国内外に広く発信してもらうもの。

My Favorite



友達

研究室の3分の1は留学生。英語と日本語を話してクラスメイトの「橋渡し役」になっています！



運動

週末は滝登りやシーカヤックなどの運動を楽しんでいます。自然に恵まれた糸島の環境が大好きです。



日本料理

醤油作りや魚料理を勉強するほど日本料理に興味津々。特に好きな食べ物は新鮮な馬刺しです。

コウケイリョウ

孔庆観さん 工学府 修士2年 化学システム工学専攻

中国の大学では薬学部にも所属。2014年10月に研究生として九大へ留学し、半年間学んだのちに一旦帰国。昨年の4月から修士課程で化学システム工学を学んでいる。優れた研究員を育てて企業へ輩出する「九州大学大学院 博士課程教育リーディングプログラム 分子システムデバイスコース」所属。



合気道部

躍動



学生スタッフが取材・執筆を担当する企画「躍動」。
タイトルは取材に協力した各サークルの代表者が書いています。
個性あふれる手書き文字に、サークル活動への熱意を感じます。

新しいことを始めるなら合気道！

どのような練習をしていますか。

北野 週に3〜4日ほど、自分の都合に合わせて武道場に来て、礼儀や技を磨いています。基本的に二人一組で稽古をします。また、受け身がきちんと取れないと怪我をしてしまうので、1年生のうちには受け身の練習を徹底しています。

他の武道との違いは何ですか。

北野 合気道は空手や柔道などと同じ日本の武道ではあるのですが、他の武道との大きな違いは、試合がないということですね。お互いを尊重する合気道では、相手に怪我をさせてしまう可能性のある試合は行いません。その代わり、演武という形で日々の練習の成果を披露しています。

どういったきっかけで入部したんですか？

小松 なにか新しいことを始めたいと思っていたところに、勧誘を受けて見学に行き、魅力を感じて入部しました。



昇段・昇級審査の練習風景

松村 大学入学直前にバイクに追いかけられて……。その時にもう少し自分の身を守るようになっていたいと思ったのがきっかけです。

自分のペースで納得行くまで極める

合気道をしていて楽しさや嬉しさを感じたエピソードを教えてください。

北野 技の理屈にたどり着いた瞬間が今までで一番嬉しかったです。合気道の本質は技や礼の理屈・理論に隠れているのですが、小学校や中学校の合気道ではたいていその本質を教えてもらえません。大学に入ってから初めて合気道のことを本当に理解できた気がしますね。

小松 他の武道とは違い、合気道は人に勝つ必要がないので、自分のペースで納得できるまで打ち込めるというのが楽しいと感じます。入部したての頃に先輩方の演武を見て絶対できないと思っていたことが、自分にもできるようになったときは嬉しかったですね。

松村 合気道の技は思った以上にテクニカルで複雑ですが、難しい技がどう効いているのかなどを考えると楽しいですね。先輩からのアドバイスの的確で、とても勉強になります。

合気道の魅力はどいったところですか。

北野 合気道には自分の体にあつた技が必ずあり、それを探しながら自分のペースで練習できることです。

小松 一つの技をするにしても、人それぞれの個性が出ていて、技を見る側も楽しめる

日々自らを鍛え、 仲間と切磋琢磨し、 己を内からも外からも磨く。

お互いを尊重するという姿勢から、試合が無い「合気道」。
45年を超える伝統を守りながら、新しいことへの挑戦も怠らない。
自分のペースに合った練習、自分にあった技で己を磨く。
今回の「躍動」では、合気道部の活動内容に迫ります。



DATA



◎部員数／約30名(男女比8:2)
◎活動場所／伊都柔道場、馬出柔道場 ◎活動日／月～土曜日
◎問い合わせ先
E-mail: kyudai.aikido.hp@gmail.com
Webサイト: <http://q-dai-aikido.p2.bindsite.jp/index.html>

FOCUS

「西南九大合同演武会」

西南学院大学と合同で主催する、九州大学合気道部にとって最も大規模な演武会です。大きなステージ上で演武を披露します。

「全九州学生合気道連合会演武会」

普段は別の場所で稽古している九州地区の学生が集まり、学生らしい勢いのある演武を披露し合います。

「夏合宿」

今年の夏休みは杵岐で6泊7日、1日6時間の稽古を行いました。稽古は辛いですが、だんだん辛さを通り越して楽しくなってくるから不思議です。

この記事は、広報室学生スタッフが制作しました。

(左から)

和田 健太郎 (工学府2年)

下山 ちひろ (理学府1年)

三根 貴大 (工学府2年)



<https://www.facebook.com/KyushuUniv.Student>

点だと思えます。

松村 合気道の魅力は、すべての動きに理由があることです。もちろん技には、重心の移動などの色々な理屈が絡んでいます。が、礼の仕方に関しても細かい作法にまで理由があり、合気道は精巧なものだと思います。

チームワークを保つために心がけていることを教えてください。

北野 合気道では個性を大切にしますが、やはり規律も重要です。そのため、練習中は技を教えてくれる人に常に感謝し、手本となる人をしつかりと見て同じ動作を行うよう指導しています。

小松 普段の練習以外にも合宿や九大祭といったイベントがあるのですが、こうしたイベントをみんなで乗り越える度にチームワークが深まっていく気がします。

今後の合気道部の目標は何ですか。

北野 まずは、46年続いている伝統をしつかりと

取材協力



(主将)
北野 楽さん
農学部3年



小松 優理子さん
理学部2年



松村 春輝さん
経済学部1年

りと次の代に引き継いでいくということです。次に、「九州中の合気道部の中で、九州大学が一番すごい」と言ってもらえるように、技術・礼儀ともに磨いていきたいと思えます。

最後に、未来の九大生に向けたメッセージをお願いします。

北野 合気道は技だけでなく礼儀も学べるので、人間力を高めることができます。多くのことを学べる部活だと思っているので、礼儀を身に着けたい、自分を磨きたいという方は、是非合気道部に来てください！

Topics 01

スマートモビリティ推進コンソーシアムを設立 ～九州大学伊都キャンパス内での自動運転バスのサービスインに向けて～



左から、守安DeNA社長、吉澤NTTドコモ社長、久保九州大学総長、高島福岡市長



自動運転バス

2016年7月8日（金）、国立大学法人九州大学、株式会社NTTドコモ（以下ドコモ）、株式会社ディー・エヌ・エー（以下DeNA）および福岡市は、福岡市役所で、2018年度下期に九州大学伊都キャンパス内自動運転バス（※1）のサービスインの実現を目的とした「スマートモビリティ推進コンソーシアム」（以下コンソーシアム）の設立会見を行いました。

コンソーシアムは、車両のハンドルやアクセル、ブレーキを運転手が操作せずに走る自動運転に必要な走行技術と、通信ネットワークや人工知能を活用した安心かつ便利なサービスの開発に向けた検討をすることで、自動運転バスサービスの早期実用化を目指します。

4者は、自動運転バスの走行実験、通信ネットワークおよびサービスプラットフォームの技術開発とそれに伴う実証実験のほか、国家戦略特区（※2）を活用した規制緩和等を合わせて検討します。

通信ネットワークおよびサービスプラットフォームの技術開発の具体的な内容として、見通しの悪い交差点の道路にセンサーを設置することで、車両搭載カメラでは認識することができない車や人を察知してバス側へ伝えるとともに「遠隔監視センター」にも伝えるといった二重の安心を確保する「路車間協調技術」に加え、バス車内のサイネージを通じて運賃や目的地への行き方等を答えてくれる「音声エージェント技術」、乗降数の予測に基づいて最適なルートで運行し時間短縮を図る

「運行管制技術」等の人工知能を活用した技術開発と実証を行います。

伊都キャンパスは、275ヘクタールの広大な敷地を有する私有地であり、かつ、キャンパス内の道路には坂や信号があるため、バスや乗用車、二輪車、自転車、歩行者等の多数の往来が伴い、公道に近い環境での技術の確立・ノウハウの蓄積が可能となります。そのため、本学の役割としては、実証実験における場所の提供および自動運転バスのサービスインに向けた調整、車内オペレーターの配備、路車通信に必要な器具の設置場所の提供となります。

なお、実証実験は、緊急時の対応と安全面確保のためバスにオペレーターが乗車して行います。

会見で久保総長は、今回のコンソーシアムが産学官の強力な連携母体となって、新しいモビリティシステム構築や過疎地域の交通問題などの社会課題の解決につながることへの期待を述べました。

（※1）運転席のないバス車両を用い、ドライバーレスに移行する前段階として、緊急の場合等に対応するオペレーターを同乗させる状態での運行を想定。

（※2）日本の経済活性化のために、地域限定で規制や制度を改革し、その効果を検証するために指定される特別な区域。

Topics 02

九州大学サイバーセキュリティセンターと福岡県警察が サイバーセキュリティに関する協定を締結

2016年6月30日(木)、九州大学サイバーセキュリティセンター(以下CSC)は、サイバー空間における福岡県民の安全と安心を確保するため、福岡県警察とサイバーセキュリティに関する協定を締結しました。

サイバーセキュリティの強化は、国の喫緊の課題であり、2014年にはサイバーセキュリティ基本法も制定されています。

福岡県でも、サイバー犯罪の脅威は深刻化しています。これらに対処するためには、最新の脅威情報や最先端の技術等を有する産業界、学術機関等との「産学官連携」が不可欠です。

6月30日(木)に福岡県警察本部で挙行された締結式には、吉田尚正福岡県警察本部長、CSCから岡村耕二センター長、その他3機関の代表等が出席し、それぞれ福岡県警察と協定を締結しました。

協定締結後、吉田本部長は、「高度な技術を持つ関係機関と



協定締結式出席者

連携することで、サイバー空間における県民の安全の確保を実現したい」と述べ、岡村センター長は、「この連携により、CSCで研究開発した成果を社会に還元する機会を持つことができる。また、県警のシステムを利用した人材育成によって、福岡県の安全・安心に貢献したい」と語りました。

今後、サイバーセキュリティの分野で、技術的な交流や人材育成を通じた連携を行い、協力していく予定です。

Topics 03

「分子システムデバイスコース」海外武者修行報告会を開催

文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」採択事業である「分子システムデバイスコース」は、産官学においてグローバルに活躍するリーダーの養成を目的とした、本学大学院の博士課程5年一貫のコースです。その中の必修プログラムの一つである「海外武者修行」は、グローバルな視点で先導的な研究開発を推進し、高いコミュニケーション能力でリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目的とし、3年次(博士後期課程1年)に海外の大学・研究機関・民間企業で最長期間9カ月間の研究留学を行うものです。2015年度には、第1期生16人が世界6カ国で実施しました。

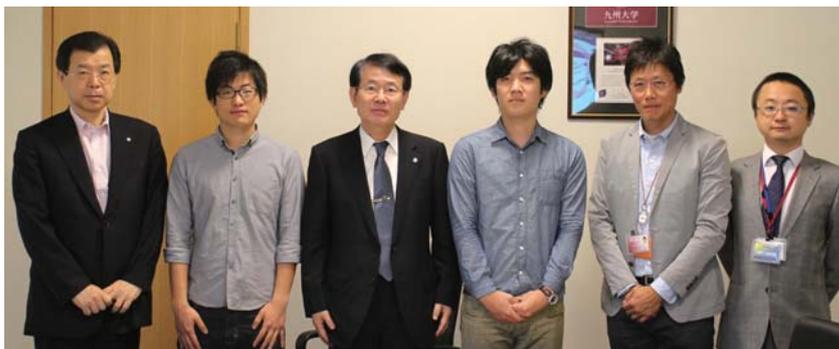
2016年5月11日(水)、武者修行を終え帰国したコース生が

集い、「海外武者修行報告会」を開催しました。コース生は、海外での研究や生活を通して得た成果を報告し、三重野寛之さん(工学府・物質創造工学専攻)と篠原修平さん(理学府・化学専攻)が代表してプレゼンテーションを行いました。

また、後日、第1期生を代表して中西契太さん(理学府・化学専攻)と永富久乗さん(工学府・物質創造工学専攻)が、久保総長に海外武者修行の成果報告を行い、海外での研究スタイルの違いや異文化での経験などについて久保総長から熱心な質問を受けた2人は、厳しい環境の中で困難を乗り越え成長したこと、武者修行を通して得た新たな視点や気付きなどについて報告しました。



海外武者修行報告会で代表してプレゼンテーションを行う三重野寛之さん



久保総長への成果報告会

Topics

04 九州大学、富士通研究所、糸島市がAIを用いた共同実証実験開始

2016年8月24日(水)、本学と株式会社富士通研究所および糸島市は、人間の好みを徐々に学習し、自ら成長するAI(人工知能)を用いて、地方都市への移住希望者と移住候補地を適切にマッチングさせるための共同実証実験開始の記者発表を糸島市役所で行いました。

今回の共同実証実験の実施にあたり、糸島市は移住希望者・地域住民インタビューのフィールド提供および移住地域推薦のノウハウ提供を、九州大学マス・フォア・インダストリ研究所富士通ソーシャル数理共同研究部門と富士通研究所はAI技術の開発および社会科学の知見を用いたAI技術の評価検証を担当します。

移住希望者の特性と好みの関係を数理技術を用いてモデル化し、そのモデルに従ってAIが移住希望者の特性に適した地域を提示、それに対するフィードバックを基に自動でモデルを修正していくという自律成長AI技術の効果検証、移住希望者が自分の移住先での希望を知る手助けを行い、AIが提供する推薦結果を市担当者と共に効率的な会話を実現するAIの社会受容性に関する効果検証を実施します。

記者発表には富士通研究所の原裕貴取締役、糸島市の月形祐二市長、本学の若山正人理事・副学長が出席し、若山理

事・副学長は今回の実証実験に対し、「現代数学を駆使し、数理研究が社会に貢献できることの実証検証を行い、さらにAIの先駆的な実証検証を糸島市で実施し、社会に貢献したい」との期待を述べました。



左から富士通研究所の原取締役、糸島市の月形市長、若山理事・副学長

Topics

05 平成28年度省エネポスター表彰式を実施

2016年5月から6月にかけて本学の学生および教職員を対象に、本学における「省エネポスター」の公募を行いました。この公募には22作品の応募があり、キャンパス計画および施設管理委員会での選考の結果、芸術工学府 芸術工学専攻の崔永洵(チェヨンソン)さんの作品を今年度の九州大学省エネポスターとして決定し、同ポスターを最優秀賞としました。

2016年7月11日(月)には、椎木講堂4階特別応接室で表彰式が行われ、選考で委員長を務めた安浦理事・副学長より表彰状と副賞が授与されました。

崔永洵(チェヨンソン)さんは、「このたびは表彰いただきありがとうございました。デザインは環境に配慮したグリーンを基調とし、内容の伝達が視覚的で言語に左右されないピクトグラムを採用しました。自分がデザインしたポスターが学内の多くのの方々の目に触れると考えると感慨深いです」と喜びを語りました。



崔永洵(チェヨンソン)さんと安浦理事・副学長



受賞ポスター

安浦理事・副学長は、「本学でデザインを学ぶ学生が受賞したことには大変意義がある。これからもデザインを迫り、また省エネに対する意識を高める活動の一翼を担ってほしい」と激励の言葉を贈りました。

この省エネポスターは学内に広く掲示され、本学の省エネの推進・啓発に役立てられます。

受賞のお知らせ

内閣府・産官学連携
功労者表彰

企業、大学、公的研究機関等の産学官連携活動において、大きな成果を収め、あるいは先進的な取組を行う等、産学官連携活動の推進に多大な貢献をした優れた成功事例に関し、その功績を称えることで我が国の産学官連携活動の更なる進展に寄与することを目的に、平成15年より行っているものです。

【国土交通大臣賞】

田島 正喜

水素エネルギー国際研究センター 客員教授
「下水汚泥消化ガスからの水素ステーション開発」

平成28年度ひらめき☆
ときめきサイエンス推進賞

日本学術振興会より「ひらめき☆ときめきサイエンス」ようこそ大学の研究室へ「KAKENHI」(研究成果の社会還元普及事業)「※」を継続的に実施した研究者に対して贈られる賞です。

鹿島 薫

大学院理学研究院 准教授
※科学研究費助成事業による研究成果を積極的に社会・国民に発信し、我が国の将来を担う児童・生徒を対象として、若者の科学的好奇心を刺激し、ひらめき・ときめく心の豊かさ・知的創造性を育むことを目的とした日本学術振興会のプログラム

平成27年度特別研究員等
審査会専門委員表彰(書面担当)

日本学術振興会が、特別研究員等審査会の書面審査において有意義な審査意見を付し適正・公平な審査に大きく貢献した専門委員を表彰するものです。

清水 和裕

大学院人文科学研究院 教授

小林 真一

大学院数理学研究院 教授

近藤 孝広

大学院工学研究院 教授

田中 真理

基幹教育院 教授

第4回
リサーチフロントアワード

トムソン・ロイター社が、今後飛躍的な発展が期待される先端研究領域を特定するとともに、その領域で世界をリードする日本の研究機関所属の研究者を広く社会に紹介することを目的としているものです。

安達 千波矢

大学院工学研究院 主幹教授
最先端有機光エレクトロニクス研究センター
(OPERA)センター長
「受賞研究リサーチフロント」：蛍光OLED / 研究分野：有機EL」

Highly Cited Researchers 2015

トムソン・ロイター社が、同社の論文動向分析データベースを用いた独自の分析により選出しているものです。今回は平成15年から平成25年の11年間に公表された論文引用データから、各研究分野においてトップ1%の被引用数を持つインパクトの非常に高い論文を一定数以上発表している研究者が「世界で影響力を持つ科学者」として選ばれています。

竹村 俊彦

応用力学研究所 教授

「地球科学(Geoscience)分野」

第3回中青年漢日対比
言語学優秀成果賞

漢日対比言語学研究会が、中国・日本を含む東アジア地域において日中言語に関する対照研究を進め、これから発展の期待される若手研究者(45歳以下)を表彰するものです。

【著作賞】

劉 巖(リュウ ヒョウ)

大学院言語文化研究院 助教
受賞著書：『談話空間における文脈指示』
(京都大学学術出版会、2015)

照明普及賞

一般社団法人照明学会が主催する照明普及賞は、昭和32年に創設され、毎年全国各地で竣工した優秀な照明施設の企画・設計および施工に功績した法人または団体等に表彰されるものです。

【平成27年度

優秀照明施設九州支部長賞】

ビッグリーフ

(講義棟・生活支援施設)

伊都キャンパスウエスト1号館南側



未来を拓く筑紫の森

—— 筑紫地区フレームワークプラン2016を策定 ——

キャンパス計画及び施設管理委員会委員長

理事・副学長

副学長

安浦

本庄

キャンパス計画室教授・副室長

坂井

春雄

寛人

2016年4月19日(火)開催の将来計画委員会において、「筑紫地区のフレームワークプラン2016」が了承されました。

持続可能なキャンパス

筑紫地区は1981(昭和56)年の開設以来、学際的な先端研究を踏まえて、全国の大学や高専でさまざまな分野の教育を受けた学生や、企業からの社会人学生、海外からの留学生が学ぶ場として発展し、国内外で活躍する研究者・高度技術者を輩出してきました。フレームワークプランは、持続可能な都市型キャンパスとしての九州大学筑紫地区のあるべき姿で、キャンパスの基本的将来像を示すことを目的としています。「筑紫地

区フレームワークプラン2016」によって、50年後、100年後においても、持続可能なキャンパスを目指します。

目指すべきキャンパスの基本的将来像

目標年を50年後の2066年とし、キャンパスの骨格を維持しつつ、各研究・教育施設が機能的で適切に配置されるよう、長期的計画を提示しています。今後のキャンパス・マスタープランを作成する際の拠り所として、土地利用、動線を主とするキャンパスの骨格を定めています。

先端科学の融合拠点

福岡都市圏における九州大学の各キャンパスは、都心部から

3方向に向かう広域的な都市軸上にあり、筑紫地区は、伊都地区、病院地区、大橋地区と相互に有機的な関係を保ちつつ、「先端科学の融合拠点」としての役割を担います。

都市との連携によるキャンパス環境づくり

筑紫地区は、福岡都市圏内部に位置する春日市と大野城市の2市に跨ります。春日市は、「人が美しく映えるまち」を目指し、安心に暮らせるまち、快適に活動できるまち、楽しくつろげるまち、を掲げています。大野城市は、「ともに創る、個性輝く、やすらぎの新コミュニティ都市」を目指し、機能的で潤いのある都市空間の創出、円滑な道路交通網の形成、誰もが安心し

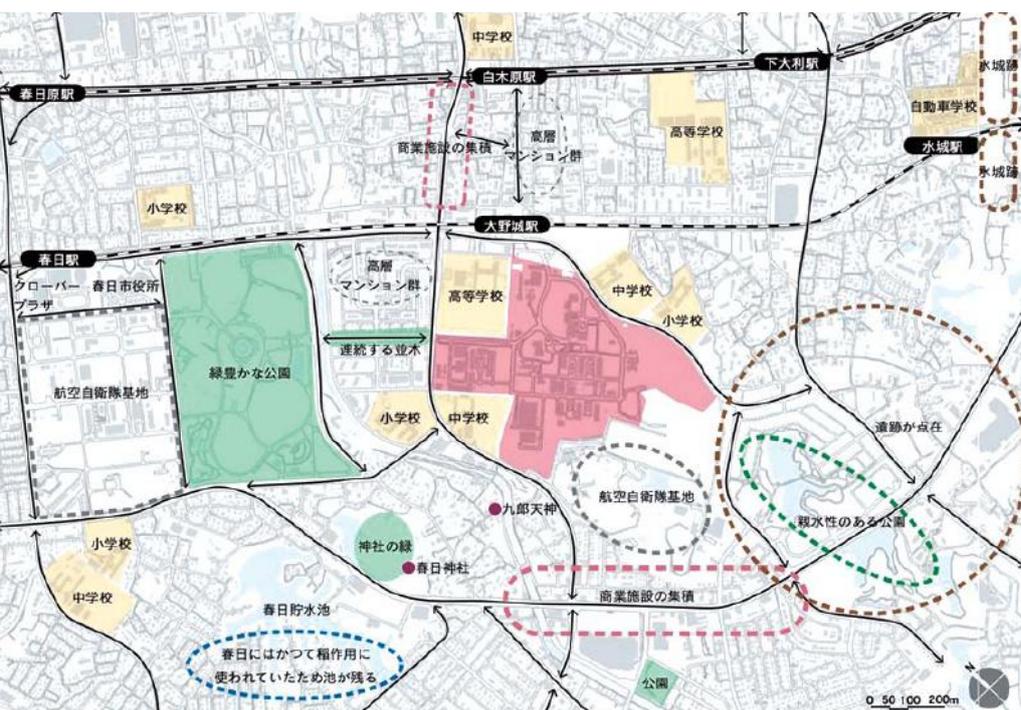
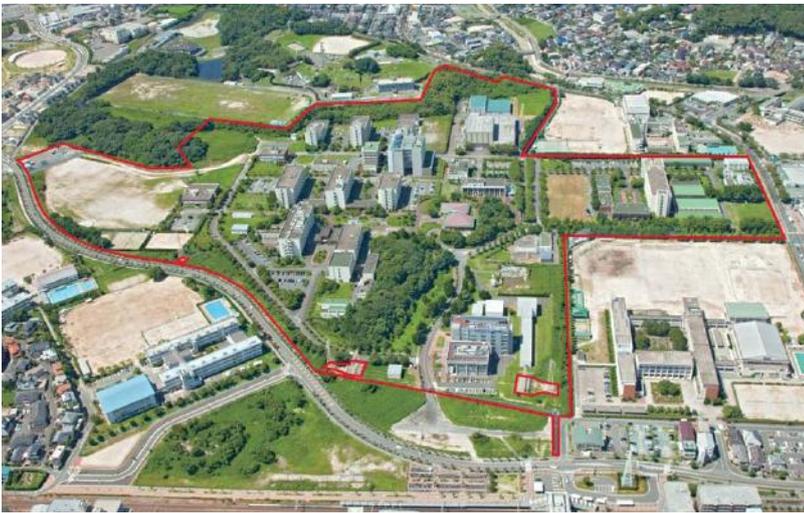


図1 キャンパス周辺の環境資源

て快適に過ごせる環境づくり、緑豊かで快適な空間の創出を掲げています。両市の計画と連携した良好なキャンパス環境づくりが求められています(図1)。

動線計画

①ゲート：春日門および大野城門のメインゲートは、来訪者を迎える「大学の顔」とし



筑紫地区空影

て、ゆとりと風格のあるランドスケープデザインとします。

②道路：幹線は、キャンパスの主動線として循環ルートを形成します。幹線から枝分かれする準幹線は、各ブロック・施設にアクセスします。幹線と準幹線は、歩行者、自転車、自動車の共存をはかります。

③キャンパス・コモンとキャンパス・モール：キャンパスの中央部に「キャンパス・コモン」を設け、キャン

パスコミュニティの核として位置付けます。アクティビティやコミュニケーションを誘発するパブリックスペースのネットワークが連続的に繋がる空間を「キャンパス・モール」とし、並木や水系、フアンチャー、アートなどで効果的に演出し、潤い、憩い、安らぎをもたらす開放的で象徴的なエリアとします。

ゾーニング計画(図2)

①アカデミックゾーン：キャンパス・コモン、キャンパス・モールおよび幹線・準幹線に沿って配置します。エリアごとに将来の増築や建て替えを考慮します。

②福利厚生ゾーン：キャンパス・コモンに配置します。福利厚生に資する生活支援サービス施設とオープンスペースで構成します。

③社会・国際連携ゾーン：春日門、大野城門付近に、産学連携施設、放送大学、留学生宿舍、レンタルオフィス、博物館、生活支援サービス施設などによる、社会に開かれた大学の機能を強化するゾーンを配置します。

④エネルギー管理ゾーン：キャンパス全体のエネルギー利用を考慮して、現在の配置を継承します。

⑤戦略的施設用地(運動場)：運動場を戦略的施設用地と位置付け、時代の変化やニーズに対応するための施設用地とします。

おわりに

策定にあたっては、キャンパス

計画および施設管理委員会(安浦寛人委員長)に筑紫キャンパスフレームワーク検討会(本庄春雄委員長、坂井猛副委員長、安浦寛人理事・副学長、佐藤優副理事(当時)、福岡県、大野城市、春日市他8名)を設置し、約1年間にわたって実質的に検討を重ねました。キャンパス環境の整備に対する皆様のご支援を引き続きお願いする次第です。

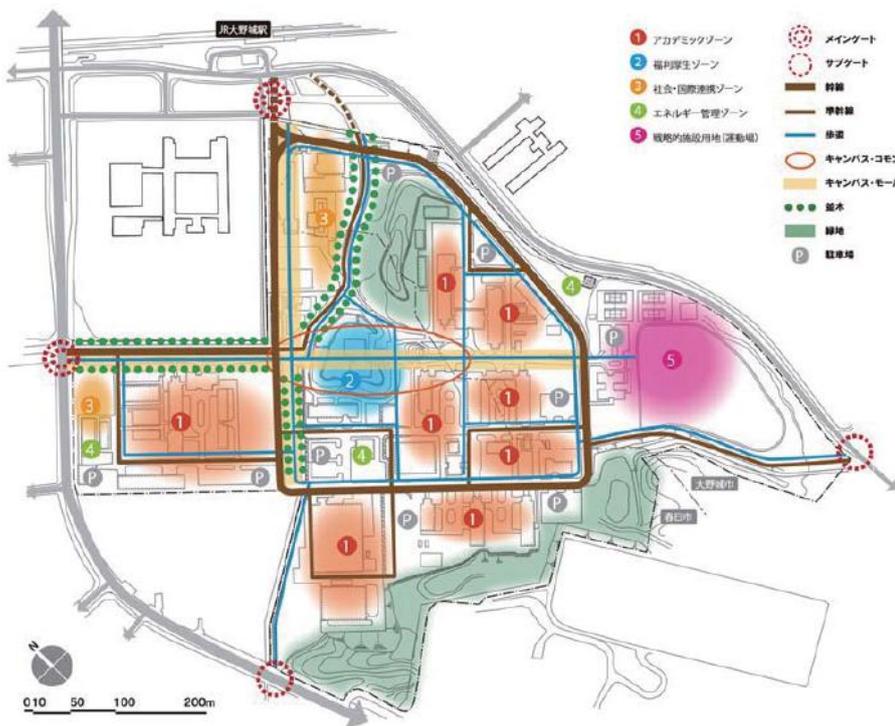


図2 ゾーニング計画



空間シミュレーションモデル

被災地の子どもをケア

人間環境学府 教授 黒木 俊秀
人間環境学府 附属総合臨床心理センター センター長 松崎 佳子

福岡県内
7大学が連携



平成23年、東日本大震災の際のほっとひろばの活動

九州大学総合臨床心理センターでは、熊本地震で被災された方々のこころの回復を

促すお手伝いをさせていた。だくため、平成28年6月4日(土)、「ほっとひろば 九大」を開設しました。「ほっとひろば 九大」は、熊本地震で被災した子どもやそのご家族が、こころの専門家や学生とともに、安心して・ゆっくり・リラックスできる時間を提供す



総合臨床心理センター

るものです。毎月第1、第3土曜日の10時30分から12時まで九州大学総合臨床心理センター1階(箱崎文系地区)で行っています。

平成23年3月の東日本大震災の際も、福岡へ避難されていた被災者のご家族(延べ60名)を対象に同様の支援を行いました。また、個別のご相談も受け付けています。この活動は、福岡

県内の臨床心理士養成大学院7大学がネットワークを作り、「ほっとひろばネットワーク2016」として、展開しています。また、現地支援者の要請に対応すべく幼い子どもへのケアに臨床心理士の派遣も行っています。

総合臨床心理センターについて

総合臨床心理センターは、人間環境学府の附属センターで、臨床心理士を目指す学生の学内実習と教育の場です。子ども発達相談部門、生涯発達相談部門、心理教育相談部門からなっており、市民の皆様への対人関係の悩みやこころの相談、発達障害などのご相談をお受けしています。平成27年度は、延べ5589件のご相談をお受けしています。

代表者より一言

日本では、平成7年の阪神淡路大震災の後から地震や津波などの自然災害で被災した人々に対するこころのケアが広く知られるようになりました。こころのケアは、災害の直後のみならず、災害から日数が経って被災地全体が復興に向かう頃にも重要になってきます。とくに子どものこころのケアは、災害から3~6カ月を経たからが正念場といわれます。私たちが息の長い支援を継続していきたいと願っています。

「ほっとひろば九大」申し込み・問い合わせ先メールアドレス: hottohiroba2016k@gmail.com



黒木 俊秀
松崎 佳子

熊本県に76人の学生を派遣！

Project 架け橋

理学府数理学専攻修士1年 矢野 陽大

ボランティアに臨む 3つの目的

平成28年6月18日(土)から7月30日(土)までの約1カ月半の間、週末を利用して計7回

熊本地震のボランティア派遣を行いました。活動場所は熊本県阿蘇郡西原村です。

今回は、「現地のボランティア不足へのアプローチ」、「ボランティアに行きたい学生が一步を踏み出すサポート」、「今後の学生の関わり方を考える」という3つの目的をもって活動を行いました。

Project 架け橋



実際に延べ76名の学生を派遣し、子どもと遊ぶといったような現地のニーズに対して効果的にアプローチすることができました。そして、ただボランティア活動を行うだけではなく、活動後に感じたことを共有するミーティングを行い、熊本



活動の様子

について考える機会も設けました。参加者から、「派遣活動が自分の大学での専攻を頑張るきっかけとなった」という声も聞け、学生が一步踏み出すサポートとなつていきます。

さらに、継続的にボランティア派遣を行ったことで現地の方との繋がりが作ることができ、今後のボランティア派遣を継続す

るときの土台も作る事ができました。

これから復興に向けてボランティアのニーズは変わっていくでしょう。団体でも今後の関わり方について、今回の派遣活動で得たことをもとに考えていきたいと思ひます。

現地からの言葉

現地ボランティアセンター運営者の方から、「震災から時間が経つに連れて現地で活動する人が減少し、ニーズが多様化することでボランティアの受け入れが非常に難しくなつてきている。その中でProject 架け橋のように定期的に現地と連絡を取りながら活動に入ってくれと非常に助かる。」と言っていただけでした。今後もこのつながりを維持し、継続した活動を行つていこうと計画しています。

代表者より一言

私たちProject 架け橋は、「九州と東北の架け橋となる」ために活動を続けてきました。その中で発生した熊本地震に「東北での経験を今回の熊本に生かすことができないか」とスタッフ全員で動き、今回の派遣活動がスタートしました。活動を通して、学生が地震や現地でのサポートについて考えるきっかけが作れたと思ひます。今後も同じ思いを持った仲間と共に学生が地域のためにできることを考えていきたいと思ひます。



山川賞により得られたもの

工学部機械航空工学科4年 若山 頌平

私は今、交換留学とインターンシップのため、アメリカに来了。時間が経つのは早いもので、1年間の交換留学もあつという間に終わり、今はアメリカ国内でインターンシップをしています。

留学当初は、初めての海外生活ということもあり戸惑うことも多く、英語に関しても学生同士の会話に付いていくことができず、さらにインターンシップを現地で見つける必要もあり、だいぶ追い込まれていました。そんな時、今でも鮮明に覚えています。午前1時半過ぎ、一通のメールが届きました。山川賞の採択通知でした。自分の実力の無さを自覚し落ち込んでいた私に誇りを与えてくれました。それ以降、よりアクティブに活動することができるようになった気がします。

本奨学金は金銭的な支援は言うまでもありませんが、学生の背中をそっと押してくれる支援制度だとも思っています。これから幾つ壁におつかることがあると思いますが、山川賞受賞者として全力で壁を乗り越えていきたいと思っています。



文部科学省にて登壇スピーチ(最前列左端が本人)



アメリカではハイキングが学生に人気です(中央が本人)

課外活動支援 体操部

器械体操選手の間では「空中感覚」という言葉がよく使われます。これは、宙返りなどの技を行う際、自分の空中での体勢や位置を感じ取る力のことです。これを鍛えるにはトランポリンを用いて練習するのが一番だといわれています。日本体操界のエースである内村航平さんも幼い頃からトランポリンを用いた練習を繰り返して行い、この感覚を養ったそうです。

私たちはトランポリンを所有していませんでしたが、今回、九州大学基金の課外活動支援によってトランポリンを購入していただくことができました。トランポリンの導入により、大半の部員が宙返り技を習得できるようになり、中にはより難易度の高い技に挑戦する部員もいます。

今年は8名の1年生が入部し、体操部は合計35名で活動しています。夏に開催される七大戦では全部員が出場し演技を披露しますので、日ごろの練習の成果を発揮したいと思います。

体操の魅力はできなかった技ができるようになり、さらにその技を美しく実施できるようになることです。七大戦でよりよい結果を残すことも私たちの目標ですが、初めて体操というスポーツに触れる人に体操の楽しさを知ってもらうこともとても重要な目標です。トランポリンでの宙返りは体操の楽しさを知ってもらうにはうってつけで、このような意味でも、今回の支援は体操部にとって非常に有益なものとなりました。厚く御礼申し上げます。



つり輪の練習



トランポリンを用いた宙返り技の練習

日本・世界の未来を担う
最先端の研究の
話が聞ける!

九大が楽しくわかる一日

同窓生・在学生
地域や一般のみなさま
お気軽にお越しください!

九州大学 アカデミック フェスティバル 2016



バスツアーで
構内を探検!



附属農場
生産物などの
販売もあります!



ホームカミングデー



私たちの日々の
研究の成果も
見ていってください

他にも
見どころ満載!

- 研究成果見本市
- うまかもん市・
九大グッズ市
(売切れ次第終了)
- ギャラリー展示

入場料無料



平成28年

日時 **10月15日(土)** 10:30~16:00
(受付開始 10:00~)

場所 **九州大学伊都キャンパス
椎木講堂 等**

九州大学では、最先端の研究成果など九州大学の“今”を楽しく知っていただく一日として、10月15日(土)に伊都キャンパスで「九州大学アカデミックフェスティバル」を初開催!

伊都キャンパス完成まであと2年、社会と共に発展する大学をめざし、「研究成果見本市」「伊都キャンパス・バスツアー」「ミニ講義」を楽しんでいただけます。九州大学に在籍経験のある方々はもちろん、高校生、地域の方々など社会のみなさまとのつながりを深めるイベントです。

入場無料で事前申し込み受付中です。多くのご参加をお待ちしています。

時間	内容等
10:30~11:00	<ul style="list-style-type: none"> ● オープニングムービー(なつかしい写真を見ながら歌う「松原に」) ● 久保千春総長 開会あいさつ ● 九州大学の“今”がよくわかるムービー ● 福岡同窓会 真正義会長 あいさつ
11:00~12:20	<ul style="list-style-type: none"> ● 九州大学の“今”がよくわかるミニ講演 井上 陽南子(21世紀プログラム・4年生 山川賞受賞学生) 辻 尚道(農学部・4年生 山川賞受賞学生) 鵜飼 哲矢 准教授(芸術工学研究院) 佐々木 一成 教授(水素エネルギー国際研究センター長)
12:20~12:35	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料電池自動車(ホンダ・クラリティ)納車式(九大公用車として)
12:35~13:20	<ul style="list-style-type: none"> ● 交歓会(ギャラリー内)

- 12:20~16:00
- 伊都キャンパス・バスツアー
5コース×2便
 - 研究成果見本市、うまかもん市、
九大グッズ市(ギャラリー)
 - 九州大学の“今”がよくわかる
ミニ講義(大会議室)
 - 同窓生と在学生の交流会
福岡同窓会の企画として実施

九州大学総務部同窓生・基金課 同窓生連携係
お問合せ TEL092-802-2158・2147

お申込み http://kikin.kyushu-u.ac.jp/academic_festival/
検索 九州大学 アカデミックフェスティバル

スマートフォンからご利用いただけます。▶





在中国九州大学同窓会

平成28年5月7日(土)、中国・北京市において「在中国九州大学同窓会」を開催しました。中国各地から約100名の同窓生が集まり、本学からは久保総長、渡邊五郎国際部長らが出席しました。

当日は、心身の健康に関するシンポジウムが開催され、久保総長や現地同窓生による講演が行われました。

引き続き開催された懇親会では、久保総長が本学の近況報告をしたほか、史寧中名誉会長(平成元年・大学院理学研究科修了)による乾杯後の歓談では、久保総長の周りに多くの同窓生が集まり、九大の思い出を口々に語る場面が見られました。途中、宋敏事務局長(本学北京事務所長、平成14年・大学院生物資源環境科学研究所在籍)から中国における同窓生の活動状況等報告がありました。学生歌「松原に」を歌いながら全員で記念撮影後、再会を約して閉会となりました。

また、懇親会会場では熊本地震被災学生等支援の募金が行われ、当日の会費の一部も寄付いただきました。

本学は、国内のみならず海外で活躍されている同窓生ともつながりを強める取り組みを進めてまいります。



左から史寧中名誉会長、久保総長、段樹民会長



全員で記念撮影

九州大学同窓会連合会事務局(総務部同窓生・基金課内)

(連絡先)TEL:092-802-2156 FAX:092-802-2149 E-mail: sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp



薬友会関東支部総会

薬友会は、薬学部および大学院薬学研究科(薬学府、薬学研究科)の卒業生、学生、教職員等を会員とする組織です。

平成28年5月15日(日)、平成28年度の総会・講演会・懇親会が東京都千代田区の学士会館で開催され、35回生(昭和61年卒)が当番幹事を務めました。

第一部の総会に続き、第二部の講演会(財)薬剤師研修センター認定研修会として開催され、次の方々に講演をいただきました。

- ◎井上和秀(昭和48年卒)・九州大学 理事・副学長
- ◎永次史(昭和61年卒)・東北大学 多元物質研究所教授
- ◎齋藤嘉朗(昭和62年卒)・国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部長

第三部の懇親会は、秋田弘幸前支部長(昭和43年卒)の開会の辞、榎木昭典氏(昭和28年卒)の乾杯で和やかに始まり、次年度当番幹事の挨拶、学生歌「松原に」の合唱後、2代目支部長の星野修氏(昭和34年卒)より閉会の辞をいただき、盛会のうちに終了しました。

お蔭様で、講演会96名、懇親会79名、総数

101名の方にご参加いただき、また、たくさんの方々から多大なご支援をいただきました。ありがとうございました。



講演会の様子

薬友会関東支部 平成28年度総会当番幹事代表 矢次 真一(昭和61年卒)

(連絡先)薬友会関東支部事務局 E-mail:yakuyu-kanto@kyudai.jp

薬友会関東支部Webサイト:http://kyushu-yakuyu-kanto.la.coocan.jp/



能古会東京支部総会

平成28年5月21日(土)、能古会(九州大学理学部地質学科・地球惑星科学科同窓会)東京支部総会を学士会館にて開催し、30名が参加しました。

特別講演では、理学部地質学科OBの酒井治孝先生(昭和56年博卒・現京都大学)に、衝突山脈ヒマラヤの地質とネパールでの教育支援活動のお話をいただきました。ヒマラヤのお話は大変スケールが大きく興味深いもので、参加者は熱心に耳を傾けていました。酒井先生はネパールでの教育支援にも尽力されており、「ネパールに学校をつくる」(著書)だけでなく奨学支援もなされています。今回の総会では昨年のネパール地震で被災した学校への募金協力を呼びかけたところ、またまった額が集まり、酒井先生にお渡しすることができました。

懇親会では世代を超えた活発な交流が行われ、最後は学生歌「松原に」の斉唱で盛会のうちに終了しました。

今後也能古会での交流を通して理学部地質学科・地球惑星科学科のネットワークを拡げられるよう、活動を進めていきたいと思



講演者の酒井治孝教授を迎える集合写真

能古会東京支部幹事 平倉 瑤子(平成25年卒)

(連絡先)同窓会事務局 東京支部 河野 啓幸(昭和54年卒) E-mail:yoshiyuki_kawano@jpower.co.jp



農学部同窓会
定例会議・うまいもん同窓会

平成28年5月28日(土)、小雨模様の中、九州大学附属図書館視聴覚ホールにて農学部同窓会評議員会に続いて、本年度より九州大学農学部との共催で総会が開催されました。講演会では、農学研究院の後藤貴文准教授(昭和63年卒)に「九州大学ブランドQBeef(ef生産システム構築への挑戦」と題して、ご自身が手掛けられた環境保全型和牛肉の誕生に至る研究と展望についてお話しいただきました。

総会后、第9回うまいもん同窓会が開催され、QBeefも提供されました。また、惜別の時が迫る農学部創立五十周年記念会館(通称 六角堂)でも、本学と唐津市が共同開発した完全養殖マサバの刺身を含む絶品料理の数々が振る舞われ、舌鼓を打ちながら談笑する会員の姿が見られました。

昨年、本同窓会との共催で九州大学農学部創立百周年記念事業会が発足し、平成31年に迎える百周年に向けてさまざまな事業が展開されつつあります。総会にて紹介され



第9回うまいもん同窓会の様子

た百周年記念施設とともに新たな時を刻んでいけるよう、引き続き同窓会活動を盛り上げてまいります。

農学部同窓会理事 青木 智佐(平成2年卒)

(連絡先)農学部同窓会事務局 TEL・FAX:092-632-7881 E-mail:dousou@grt.kyushu-u.ac.jp



医学部同窓会総会

平成28年6月18日(土)、九州大学医学部百年講堂にて、医学部同窓会総会を開催しました。

4月に就任した富永隆治会長(昭和50年卒)の挨拶に続き、新任教授の塩瀬明教授(平成7年卒・循環器外科学分野)が「海外における重症心不全治療の動向」について、同じく江藤正俊教授(昭和61年卒・泌尿器科学分野)が「臓器移植における免疫寛容誘導の現況と展望」について、それぞれ講演を行いました。

また、医学部同窓会顧問である熊澤浄一先生(昭和34年卒)から「人生の6・2%..最も充実した時」と題した特別講演も行われました。

講演に引き続いて懇親会が行われ、盛会のうちには終了しました。



九州大学医学部百年講堂にて

医学部同窓会事務局長 中牟田 勲

(連絡先)TEL:092-642-6893



関西同窓会
夏季ビアパーティー

平成28年8月1日(月)、ハートンホテル北梅田にて夏季ビアパーティーを開催しました。第一部の講演会では、大学院比較社会文化研究院客員教授で、国立極地研究所の本吉洋一教授から「南極から見た地球環境変動」について、ご講演をいただきました。

第二部の懇親会は、北野嘉文氏(昭和57年・経済学部卒)と長友理沙氏(平成25年・教育学部卒)の司会により、上野至大同窓会長(昭和42年・工学部卒)のご挨拶、松崎昭副会長(昭和41年・工学部卒)の乾杯のご発声で幕を開けました。今回の参加者は79名(うち女性が6名、平成卒が29名)で、新入会員は20名とだんだん増加しています。

新入会員のスピーチでは、卒業後の経験談や当同窓会を知ったきっかけ、当同窓会が学部を超えてさまざまな方と交流ができて楽しく有意義であることなどの感想が述べられました。恒例のコールアカデミー演奏は、若手の参加を得てメン

バーが舞台上に乗り切れないほどで、アンコールまで盛り上がりましました。



学生歌「松原」を合唱

最後は応援OBのリードにより、全員で学生歌「松原」を歌って閉会しました。

岡 政徳 関西同窓会幹事長(昭和44年・法学部卒)

(連絡先)関連webサイト:<http://koyukai.kyushu-u.ac.jp/alumni/65>



九州大学総合研究博物館
Kyushu University Museum

九州大学総合研究博物館の収蔵資料 鉱山 大國日本の記憶 (工学部列品室標本)



1902年に足尾銅山で試験的に導入された転炉(銅マットから金銀を分離するためのセクター)



フライベルク鉱山大学製の精密模型
(出典:『九州大学百年の宝物』)



鉱山設備(部品)と鑿岩機
(出典:『九州大学百年の宝物』)

工学部列品室の昭和初期のヨーロッパの鉱物標本、国内主要鉱山の鉱石標本、幕末〜昭和の採鉱・製錬関連の多様な標本は、我が国の鉱山技術史上重要であると共に、かつての「鉱山大國日本」の鉱業の発展を九州大学が担ってきた事を物語っています。

(九州大学総合研究博物館 准教授 中西哲也)

日本はよく「資源の無い国」と言われます。しかし、日本における鉱山の開発は7世紀の対馬の銀に始まり、9世紀の奈良の大仏には国内産の銅が約500トン使用されました。戦国〜江戸時代には数多くの鉱山が発見・開発され、大名・幕府の重要な資金源となります。これらの多くの鉱山が、日本の近代鉱業へと引継がれています。

採鉱および冶金学科(現在の地球資源システム工学部門・材料工学部門)は、1911(明治44)年の九州帝国大学工科大学発足時に、他の4学科(土木・機械・電気・応用化学)と共に設置されました。1914(大正3)年に落成した赤煉瓦造2階建の工科大学本館に、各学科の列品室が置

かれましたが、1923(大正12)年の火災で本館は消失。1930(昭和5)年に旧工学部本館が再建し、列品室も3階中央に復旧します。その後、採鉱・冶金学科の列品室のみが残り、1986(昭和61)年の本館改修に伴い、現在の2室に移設されました。

古い台帳によると、1911(明治44)年に輝安鉱標本、結晶模型、断面模型、本館落成までに鉱山関連模型、製錬関連模型、安全燈、測量機器等を購入しています。さらに削岩機等を加え初期の列品室に展示されました。約4000点の鉱物・岩石標本の中心は、本館再建時に購入されたヨーロッパやアフリカの代表的な産地の大型標本等730点であり、その後の国内産

標本が加えられました。また、1930(昭和5)年に国内各地の製錬所から製錬工程の各産物が寄贈されているほか、古式鉱山道具、高島炭坑(軍艦島)模型、石炭石油標本、削岩機等が追加されて現在のコレクションとなっています。



市ノ川鉱山産輝安鉱標本
(1911年6月20日購入)
(出典:『九州大学百年の宝物』)



鹿児島県菱刈鉱山の
超高品位金鉱石(金品位3.6kg/t)

第69回九大祭「いとをつなぐ」

九大祭は、毎年11月下旬に伊都キャンパスにて開催される九州大学最大規模のお祭りです。今年度のテーマは、「いとをつなぐ」。年々拡大し発展していく伊都キャンパスで、皆さまのたくさんの思いや願いを結び付け、繋ぎ合わせるによって、一つの大きな作品として第69回九大祭を完成させることができればと思っています。

九大生によるテント企画や教室企画、ステージ企画に加え、ミスター九大・ミス九大コンテストや特別講義など、多くの方楽しんでいただけるような数々の企画を用意しています。



日時:2016年11月19日(土)~20日(日)

会場:九州大学伊都キャンパス(福岡市西区元岡744)

【お問合せ先】第69回九大祭実行委員会 TEL/FAX:092-802-5997

E-mail: info69@kyudaisai.jp Webサイト: <http://www.kyudaisai.jp>

第13回芸工祭

芸工祭の特徴は、舞台、演出、照明、音響などの全てを、学生たちが自らの手で一から作り上げるところです。ファッションショー、インスタレーション、演劇、クラブイベントなど、既定の枠にとられない新しいエンターテインメントをお届けします。

そのほかにも青空プロレスやライブステージなど、芸工祭を盛り上げるイベントも催されます。芸術工学部ならではのクリエイティブな発想が活かされた芸工祭をお楽しみください。



日時:2016年11月19日(土)・20日(日)

会場:九州大学大橋キャンパス(福岡市南区塩原4-9-1)

※18日(金)前夜祭

【お問合せ先】第13回芸工祭実行委員会

E-mail: geikofes.exe13th@gmail.com twitter: @goken_13th



住所変更ほか、発送についてのお問い合わせは、封筒記載の連絡先へお願いします。

九州大学広報室 TEL:092-802-2130 E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp
九州大学学生後援会 TEL:092-802-5968 E-mail:gaggkouenkai@jimu.kyushu-u.ac.jp
九州大学同窓会連合会 TEL:092-802-2158 E-mail:sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY